



長岡京遷都1200年記念座談会

新しい市民文化をめざして

世界的大都市

だった長岡京

佐々木 「向日市史」をみますと、延暦3年(西暦784年)11月11日、桓武天皇は奈良の平城京から長岡京にお移りになったとあります。ちょうど今年が千二百年目に当たるわけです。

この長岡京は、10年間という短命の都であったので、建物も十分になかったのではないかとわかれていたのですが、発掘調査で立派な都跡があったことがわかりました。当時の人口は5万ぐらいで、これは世界的大都市だったといえますね。

この長岡京遷都千二百年という記念すべき年にあたり、向日市ではどのような行事を計画されていますか。

市長 先人の偉業を思いおこして、この長岡京遷都千二百年を契機にして、今後の文化的なまちづくりを進めたいと思っています。そのまちづくりをふさわしい大きな役割を果たす記念事業を、乙訓二市一町をあげて行いたいと思っています。

具体的には、記念日の11月11日、協賛会主催の大極殿祭が行われ、午後から記念式典と記念講演会を行います。18日には、当時の装束を現代に再現する記念行列を行う予定です。

佐々木 今年の11月11日は日曜日にあたるのでよろしいですね。それで、記念講演会にはどなたが……。

市長 松本清張さんを予定しています。佐々木 それはいい。良い記念講演会になりますね。記念行列というのは……。

市長 当時の装束をつけて、大山崎町から長岡京市まで向日市まで、約7kmを行列するわけです。

その他には、長岡京が、まだよく知られていないので、小・中学校の教科書に長岡京の記載を必ずしてもらおうと、文部省や出版社にお願いする運動もやりたいと考えています。また、カラー冊子の『長岡京』の発行、記念パンフレット、国鉄の記念入場券、教材用のビデオの制作などもやりたいと思っています。

向日市の単独事業としては、ハード面のメインとして、文化資料館や図書館、21世紀の市民へのプレゼントとしてタイムカプセルや青少年の健全育成を願う「市民の鐘」を設けたいと思っています。それと、佐々木先生がたにお願ひしています『向日市史』下巻も発行し、また、『向日市まつり』や

市民総合体育大会も記念事業の中に組み入れて、遷都千二百年にふさわしいものになりたいと思っています。

住んでいきたいまち

向日市

佐々木 長岡京は、一時期日本の首都だったわけですが、かつての首都を市内にもつ都市は全国にそうたくさんはありません。

その歴史を検証することは、市民にとっても、自分たちの住んでいる場所を再確認する意味で大変いいことです。

市長 ええ、そうなんです。このような事業をやることによって、市民に「ふるさと」に対する理解を深めていただき、誇りと愛郷心を持っていただきたいと思います。そうすることが、今後のまちづくりに参加してもらおうための基礎固めになると考えています。

佐々木 私も市民の一人ですが、これを機会に「ふるさと」への理解を深めることにしましょう。

ところで、いま「まちづくり」のお話がありました。市民はまちづくりについて、いったいどのように考えておられるのか。新しい市民文化の創造という点と関係して、興味あるところですが、これについては、向日市が昭和55年の総合計画策定の時に実施した「まちづくりのための住民意向調査」と「まちづくりのための農家調査」という2つの調査が、よい参考になります。

その内容をごく簡単に紹介しますと、サンプリングは1000名ですが、その中で69%が昭和41年以降に向日市民になっているんですね。ということは、向日市民の約7割は、ごく新しい市民といえます。さらに、大変おもしろいことには、その来住者の中の47・1%は「向日市に長く住み続けたい」といい、また、33・8%は「当分は住み続けたい」といっているんですね。ものすごいベッドタウン化のなかで、新しく住みついた人の8割が、この町に住みつきたいといっているのは、ベッドタウンとしては、大変めずらしいケースだと思います。

このことは、向日市としての大きな特色だと思います。しかも、その新しく住みついた人たちが、地域の活動に参加することが意外に多いんですね。久武、そうですね、町内会への参加であるとか、地元のある催し物への参加であるとかで、なかなか積極的で、消極的な層は割合少ないといえますね。

市長 ええ、スポーツを通じてふれあいを高めたいということで、向日市は体育振興の面でさかんなんです。たとえば、各地域で体育大会がありますが、その参加者もみても、新しく向日市に転入されている方が積極的なんですね。

佐々木 もう一つの調査の中で興味深いのは、最近転入した若い世代の方で、「かりに移転するなら」という質問に「向日市に住みたい」というのが44・5%もあるんですね。いわば、この方たちは、潜在的向日市定住希望者だといえますね。

その理由はどうと、自然環境に恵まれている、通勤・通学に便利だ、子供の保育教育にも良いというのです。

さらにこの調査の中で、住民の描く理想的な都市像としては、居住地として魅力のあるまちに、人口を抑制してゆとりあるまちに、あるいは、職住のバランスのとれたまちにという意見が多い。一番の要求は、やはり「自然」ということですね。

緑の保全

が大切

市長 自然環境については、市としては、絶対に緑を残していこうと考えています。そのためには、西ノ岡の丘陵地帯の緑を保全し、農地についても生産緑地という形で確保したいと思っています。つまり西ノ岡の丘陵には、市民に親しんでいただけるような憩いの場としての自然公園、散策路やジョギング路をつくり活用していただけるように思っています。そのふもとには、文化的な施設としての図書館や文化資料館が市民のふれあいの場となればと思っています。

佐々木 その自然がいいという中の一つに水がいいというのがありますね。向日市の水道は、実においしいです。

市長 ありがとうございます。本当に私もそう思います。そのおいしい水をつくりだすためにも、水源確保の一つとして西ノ岡の丘陵の緑は重要だと思っています。

佐々木 そうですね、緑があり、水がおいしいまちは、京阪神圏では、六甲山のある神戸もそうなんです。なかなか見当たらないですね。そのためにも、西ノ岡の丘陵の緑を保全するというのは大変成ですね。市長 ええ、構想としては、自然公園的なものを考えています。たとえば、ハリコ池や第6向陽小学校あたりの自然をそのまま将来的にも保全していきたいと思っています。

物館教授
高明

文学博士
文化史専攻 主な調
査地域は、南アジア、南アジ
ア、インド、ネ
パール、中国、日本各地
にから 著書に『熱
帯雨林』、『照葉樹林文
化史』など。

受
新也

歴史地理学・文化地
理学 研究地域は、日
本、昭和46年以来、日
本、メキシコ、アメリカ
にから 研究に從事 主要
な著書に『砂絵地図-アメリ
カとその土着的表現』

原夫

